

やっぱりカボチャだったんだ

福島市立岡山幼稚園（福島県福島市）

【5歳児】

<意図> 今まで経験のないカボチャの栽培をし、生長過程に興味・関心をもってほしい。

<実践内容>

青字 疑問に思うなど、心が動いている場面

5月中旬（カボチャの苗植え）

幼稚園で種を蒔き、育てたカボチャが苗になった。全園児にカボチャの苗を提示し、幼稚園でカボチャを育てていくこと、カボチャのお世話は年長児が行うことを決める。自分達で初めて育てる野菜「カボチャ」だったので、興味をもって苗を見ていた。5歳児が代表で植えることで、今までの野菜や花の苗の植え方を思い出しながら意欲的にかかわろうとする姿が見られた。「カボチャができますように」「おいしくできますように」とお願いをして、グループごとに水やりをするようにしていく。年長児としての自覚と生長を楽しみにしている様子が見られる。

環境構成の工夫 畑で栽培をするのではなく、毎日の生活の中で、気付きや発見ができるようにあえて、園庭を利用して栽培する。

5月下旬（カボチャの水やり）

環境構成の工夫 水やりをしやすいように、じょうろの数を増やし、じょうろ置き場を整える。

暑いからのどがかわくんだね！



天候の良い日が続く、地面の乾きが早くなってきた事に気付く。「暑いからのどがかわくんだね！」と水をたっぷりあげる姿や、カボチャに言葉をかけながら、何回もじょうろに汲んできて水やりをする姿が見られる。なかなか、かかわれない幼児も、意欲的に水やりをする姿が増える。

6月上旬

水やりしながら、「葉っぱがいっぱいになってきた」「大きくなってきたね」と気付いたことを友達同士で話す。

環境構成の工夫 写真と文字でかぼちゃの生長過程が分かるような掲示物をつくり保育室に掲示する。掲示を見て「こんなふうになったんだよね」と確認し合う姿が見られる。

葉っぱがいっぱいになってきた



6月中旬

環境構成の工夫 フェンスと園舎の屋上からネットを張り、雌花や雄花、つるの生長の様子が分かるようにして栽培をする。図鑑を見やすく設定する。

カボチャがどんどん伸びていき、よく見ると、黄色い花の下に小さなカボチャがついているのに気付く。「黄色い花が咲いていて、はなのしたにまあいのあるの」と興奮しながら保育者に知らせに来る幼児もいる。「先生！花の下に、まあいのがついてないのもあるよ！」幼児と一緒にカボチャの所に行って確かめ共感しながら、雌花と雄花の違いが分かるように「図鑑を見て確かめよう！」と誘う。

図鑑を見ながら、カボチャには雄花と雌花があることを知り「あれ～この図鑑と今見たカボチャの花が同じだ！」と発見を友達と一緒に喜び合う。

カボチャは、ネットに這わせてあるので、生長の様子を詳しく見ることができる。

黄色い花が咲いていて、花の下にまあいのある



6月下旬

カボチャのつるはどんどん伸び、頭の上までできていた。黄緑色のカボチャがいくつも生っているのを見つけ、「いっぱいってる！」と嬉しそうに話しをしている。「どうして、こんなに大きいカボチャが落ちないんだろう？」「カボチャのつるってクルクル巻いてあるよ！」と不思議に思っている。

「本当だね！つるがしっかりと巻き付いているね！」「これで大きなカボチャと身体を支えているんだね！」と、保育者は幼児の思いを受け止め、確認し合う。

どうして、こんなに大きいカボチャが落ちないんだろう？



カボチャのつるってクルクル巻いてあるよ！

7月上旬

カボチャが黄緑色から緑色に変化し、「本物のカボチャになった」と喜ぶ。よくカボチャの形を見て、「ふうりんみたい」「まらかすみみたい」「おしりみたい」といろいろ想像して楽しんでいる。

7月中旬

「これは赤ちゃんカボチャだから、まだ採らない方がいいよ。あれはおっきいからいいよ」「いくつなっているかな？」などと数を数えながら、明日の収穫を楽しみにして話をしていた。カボチャの色つきで、「収穫してもよいのか、まだ、取れないのか」幼児が見ても分かるようである。

7月下旬

カボチャの苗植えをした時と同じように、全園児でカボチャの前に集まる。代表児に収穫してもらおう。カボチャを持ってまわして取ると、「うわ~重い!」「とげとげがあるよ!」等収穫の喜びをみんなで味わい、うれしそうな表情であった。その後、カボチャの素揚げをみんなで食べる。

本物のカボチャになった



ふうりんみたい



とげとげ
があるよ!

<実践を通してわかったこと>

カボチャがなった時、保育者が幼児の気付きを大切にすることで、「花の下に丸いのが付いている。丸いのがなく枯れてなくなる花がある」と気付きや疑問をもち、予想していたので、「やっぱりカボチャだったんだ!」と確信する体験が得られた。

この栽培活動を通して、雄花と雌花の違いやつるの巻き方、園庭に栽培することで得られるもの、ネットを張って観察をしやすくしたこと、生長の様子を掲示するなど環境構成の工夫の大切さを再確認できた。

みどころ

土が乾いてしまう状況やカボチャのつるがどんどん伸びていく様子、「カボチャの実になる」という予想につながる花の様子など、子どもたちが世話をしながらよく観ていることが分かります。

大きなカボチャをイメージできるので、どんどん高く伸びる様子から、「どうして、こんなに大きいカボチャが落ちないんだろう?」という5歳児らしい疑問をもっています。こうして疑問をもってカボチャをよく観たことで、カボチャのつるを発見し、その様子や働きを考えることに結びつきました。

このように子どもたちがよく観ることができたのは、保育者の環境の工夫の成果です。